目の前の小さな命に最期まで寄り添う覚悟を

土田 悦子さん
Tsuchida Etsuko

〔岩下一区〕

つちだ えつこ / 動物愛護団体「アニマルアシスト千手」代表。約10人のメンバーとともに、保護された犬猫のケアや新たな暮らし探しを通して、彼らの命をつなぐ活動に力を注いでいる。

「ペットを飼う時は、最期を見届ける覚悟と正しい知識が必要です。その命に責任を持ちましょう。どうしても手放す場合は、その子の新しい暮らしを見つけるまでが飼い主の務めです」と話すのは、保護された犬猫の支援に取り組む土田悦子さん(岩下一区)。

県が掲げる「犬猫の殺処分ゼロ」を目指して、保護犬などの新しい飼い主を探す譲渡会にボランティアで参加するなど、ペットの適正飼育の普及啓発に力を入れている。

土田さんが保護犬の存在を知ったのは、SNSの投稿を偶然見かけて保健所に足を運んだのがきっかけ。殺処分されるだけだと思っていた保護犬たちが、丁寧なケアや譲渡会を通して命をつなげる様子を目の当たりにして、自身も何かできないかと考えたという。多くの譲渡会に携わる中で、平成28年に動物愛護団体を立ち上げて以来、命ある犬猫たちを大切にしてくれる人に託す活動を続けている。

「犬や猫の寿命は長いもので20年ほどです。飼っている間に飼い主も年齢を重ね、ライフスタイルが変化します。散歩や食事の世話といった時間的余裕だけでなく、予防注射費や毎日の食事代などの経済的余裕も必要です。ペットを飼う前に、最期まで命の責任を果たせるかの思慮が大切です」と訴える。

犬を飼う場合、町への登録と年1回の狂犬病予防注射に加え、鑑札と注射済票を飼い犬に装着することが法律で義務づけられている。また、迷子札の装着も飼い犬の命を救う手助けになる。猫の場合は、避妊去勢はもちろん、家から出さないことが望まれない命を救うためには必要だ。

「9月20日～26日は動物愛護週間です。ペットはあなたの大切な家族の一員。いつまでもたくさんの愛情を注いであげてくださいね」と話す土田さんは、目の前の命に向き合い続ける。

広報 こうさ

2021年（令和３年）９月号
通巻626号

発行・甲佐町　発行人・甲佐町長 奥名克美　編集・企画課　住所・〒861-4696 熊本県上益城郡甲佐町大字豊内719番地4　TEL096-234-1115
URL・https://www.town.kosa.lg.jp/　※本紙は再生紙を使用しています。